

ドイツは各州に同じセンターがあります。けれども、こちらのヘッセン州のセンターは特別広いです。やっぱり、フランクフルトは国際空港に近い国際都市なので、よく外国からナショナルチームが来るなど、特別です。でも、同じ総合センターは、各州にあります。ドイツは連邦だから、平等にそれぞれの各州にあるのです。

向こうの方に見えるのは、連邦の体操学校です。

○中井議員 連邦の体操学校もあるし、またヘッセン州のスポーツ学校もあるんですね。

○説明者 同じ体育の学校ですけれども、向こうは連邦が、こちらはヘッセン州が運営しています。

○中井議員 1年間にどれぐらいの運営費がかかっていますか。

○説明者 こちらのヘッセン州では、ロト、t o t o、宝くじから1年間、一般的スポーツクラブのために、約2,000万ユーロをもらっています。

それを加えると、1年間の総合センターの予算は実質倍になります。4,000万ユーロです。そうすると1年間の予算の半分ぐらいは宝くじです。こちらのヘッセン州の総合センターの従業員、コックさん、掃除の担当の方、フロントの方入れて、180人です。

(会議室)

○中井議員 立派な施設を見学させていただいて、ありがとうございました。

あらゆるスポーツの指導者や練習する場であるということを改めて認識させていただきました。

あと、団員のそれぞれから質問があらうかと思しますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○土師議員 スポンサーの話についてお教えてください。ロゴタイプにはどんなバリエーションがありますか、例えば、ゼッケンスponsorとか、いろんなバリエーション。

○説明者 ケース・バイ・ケースです。例えば、1つのイベントでは、1つのスポンサーがお金を出すんですよ。けれども、やっぱりそういうものもあります、Tシャツにつけるとか、ケース・バイ・ケースです。

○土師議員 端的に言います。

スポンサーに持っていくときのメニューがありますね。そういうセールシート、それを後で、いただけないでしょうか。

○説明者 あんまりないです。

まず、やっぱりこちらのセンターと各スポーツの契約があります。その契約の中で、すべての細かいところまで書いてあるから、別にそういう説明書はありません。それから、スポンサーからの収入は、わずかな金額しかもらってないです。こちらの主な収入はやっぱり宝くじあるいは国からの税金です。

こちらの目的は健康のため、健全のため、スポーツのためですから。だから、イベントの数が割合少ないです。もちろんスポーツイベントもありますけれども、割合少ないです。

連邦のクラブの指導は一番優秀な人からです。こちらの教育のレベルの指導をするところ  
です。

例えばこちらの仕事としては、刑務所の中のスポーツの先生の訓練という仕事もあります。これには特別な訓練が必要です。

他には、幼稚園の先生方の訓練もあります。小さい子どもの体操について、簡単な訓練を行います。また、最近社会問題になる、肥満児のための勉強会もあります。運動と食生活についてのプログラムです。今まで別々だった、健常者と障害者が、できれば一緒にスポーツ交流する、それには専門家が必要です。

○水谷議員 ということは、指導者をまず育てる、健常者と障害者も一緒にやります、それも  
ありますし、そのプログラムがあつて、両方教えてるわけですね。

○説明者 そうです。両方です。ここではもちろんスポーツ関係の仕事をしているわけですが、  
社会のため、福祉のための仕事をしているということになります。

スポーツの経験者になったら、全体的に優秀な大人に成長します。

○水谷議員 スポーツを通して健全な体をつくる、心をつくるということですね。そういうね  
らいがあると。

○西議員 根本的な質問で恐縮なんですけど、指導者が来るだけですか。

○説明者 両方ですね。スポーツの好きな人も来ますが、ほとんどは指導者です。

○池田議員 スポーツのアスリート、それは連邦でやっておられるですね。

○説明者 連邦で行っています。あれはクラブの活動です。女子サッカーチームは来たんです  
が、優秀なスキーの専門家とテニスのスーパースターとかは来ません。

○水谷議員 武道はどうでしょうか。

○説明者 来ません。柔道の連盟のクラブは隣です。

ほとんど先生のための指導です。柔道、空手とか。5年ごとに、世界じゅうの一番優秀な柔  
道の方、いらっしゃるんです。けれども、場所的に割合狭いから、そういう人たちは南ドイ  
ツ、ミュンヘンの方へいらっしゃるんです。オリンピックセンターにありますから。

○中井議員 ここは指導者の育成をするための訓練施設であることはわかりました。年間どれ  
ぐらいの人がここへ学びに来られていますか。

○説明者 宿泊数でいいますと、1年間に3万泊です。こちらのヘッセン州からの先生方、ス  
ポーツ関係の方は、宿泊はほとんど無料で泊まれます。ヘッセン州以外から来た人は、高く  
なります。そして、全然関係ない人は、やっぱり高い、これも1つの収入になりますから。

○中井議員 主に週末の利用者が多くて、ウィークデーは閑散としていますか。

○説明者 やっぱり週末が一番忙しいです。週末になると、やっぱりボランティアの方もいら

っしゃいます。それに学校の先生は、月曜日から金曜日まで仕事です。そうになると、週末がやっぱり一番忙しいです。

○中井議員 予約制ですか。

○説明者 予約制です。フランクフルトの見本市の時期は、ホテルの数が足りなくて困るので、スポーツマン以外も泊めるんです。

○水谷議員 メッセのときは一般にも貸すのですね。

○説明者 すごくいい収入になります。収支についてですが、赤字ですね、約100万ユーロの赤字になります。その赤字は、ヘッセン州か、国か、スポンサーに埋めあわせてもらっています。

○水谷議員 赤字の要因は何ですか。

○説明者 例えば、こちらのヘッセン州の指導者の来的时候は、ほとんどもらっていません。割合収入が少ないからです。そして、プール、光熱費に多くかかっています。

○土師議員 基本的に、営利目的でなしに、社会福祉が目的なわけで、運営費の80%は宝くじからの収入と、お聞きしたと思いますが。

○説明者 約2,000万ユーロは、宝くじからです。ほかの収入としては、ヘッセン州の厚生省からです。その他ヘッセン州のスポーツクラブとしては、会員のお金の一部ももらいます。ヘッセン州の中でクラブの数は7,000あります。各クラブからメンバーの関係でお金が少し入ってきます。イベントの運営の80%が宝くじからの収入になります。

○池田議員 堺では、日本のサッカー、ナショナルトレーニングセンター、これからつくっていくのですが、まだ何も余り具体的なことは決まっています。先ほどのお話で身体障害者の利用、あるいはスポーツ以外の利用、そういうこともまだまだこれからの検討課題です。例えば身体障害者と一緒に競技する、あるいはスポーツ以外のそういう利用ということで、何かいいアドバイスをいただければと思っています。

○説明者 totoはご存じですね。totoはサッカー、サッカーから直接ではありませんが、間接的に収入が入ることになります、そうするとサッカーが一番重要ということになります。

そうして、スポンサーの本当の目的ですね、やっぱりサッカーですね。例えば、自転車何かだったら、スポンサーはまだなかなか見つからない。サッカーと一緒にやったらお金が入ってくるんです。身体障害者の教育のためにもそのお金を使うことができます。

○池田議員 人気スポーツでいかないとだめですね。

○説明者 やっぱり人気スポーツですね。

○中井議員 青少年の健全育成にスポーツというものが大きな効果があると思いますが、こちらの指導者を育成している中で、素直な子じゃなくて、いわゆる非行少年、悪いことする子どもたち、この非行少年を正すための指導というのは、されるんですか。

○説明者 最近では、そういう暴力のこと、非行者のための新しいプロジェクトを幾つも組んでいます。例えば、ストリートサッカー、道路でのサッカーです。非行予防のために、あるいは刑務所の中ですね、非行者のために。

○中井議員 道路でサッカーするのですか。

○説明者 道路です。まちの真ん中。貧困層の子どもたち、暴力に弱い子どもたちが、先生方と一緒にまちの中で、サッカーをしています。目的はコミュニケーションです。

最近、刑務所に入った若い人のために、ボクシングをしています。やっぱり体を使ったら、精神的に発散する。それで、女の人に対しては空手です。

○中井議員 今の刑務所の中におけるサッカーなり、あるいは空手、それも刑務所の中に服役している女性の方に対して教える、そういう教えるための先生の育成をここでするんですか。

○説明者 先生やボランティアの人が、刑務所の中で指導するために、こちらの方へ来てそういうスポーツの訓練を受けています。

○池田議員 さっきのスポンサーの話、スポンサーから直接にもらうんじゃなくて、どこかを通してしてもらうということですか。

○説明者 年2回、3回、大きなイベントがあります、そのときに銀行からとか、飲料会社からお金が入ってきますが、直接ではなくて、間接的にイベントの関係でお金が入ってきます。

○中井議員 学校の、いわゆる体操の先生とか、そういう人たちの指導もここでされてるんですか。学校の中における体操の、小学校、中学校、高校の、その先生の指導をしていますか。

○説明者 新しいスポーツが生まれています。今まで先生が大学にいたときになかったものについて、こちらで訓練いたします。希望があればです。

○中井議員 各学校の方からの要請というものがあって、それにこたえるように、こちらで指導するということですか。

○説明者 そうです。希望があったら、追加訓練いたします。

○池田議員 ここのことじゃなくて、少し地域のスポーツクラブのことについてお伺いをしたいんですけど、7,000ほどのスポーツクラブがあるということですけど、日本はまだまだこれからなんです。堺も、これからつくるということで、地域に根差す歴史が違いますが、簡単に言うと、クラブが地域に根差すためにどうしたらいいですか。

○説明者 非常に難しいです。もうずっと、100年以上の伝統です。普通1人のドイツ人は、3つのスポーツクラブのメンバーです。

これはすごいことです。私はフィットネス、水泳と自転車のメンバーですが、これは普通です。安くて、おもしろいです。伝統も100年か、150年か、200年ぐらいじゃないでしょうか。

まず楽しくて、お金がかかりません、それで各町に、すべてクラブがあります。

問題は、今は若い人はあんまり興味がないことですね。そうすると、やっぱりクラブに入

ったら、半分は自分のために、でもボランティアの関係でやっぱり自分の力も出さなくちゃいけない。例えば、最近ですね、若い人はあんまり興味がないから、お金のかわりに、割引券をもらうんです。映画館やバスがただになります。募集のためにですが、これが新しいやり方です。最近では学校で、そういうボランティアの生徒たちが、証明書をもらうんです。それで1年間、全部参加したら、あの学校はすごくいいと評判がよくなり、学校のステータスが上がりますね。

例えば、ドイツの場合、地方のまち、地方の村、スポーツクラブのメンバーじゃないと、まちの中のその人の評判はよくない、出世できません。必ず行かないと、人間関係が薄くなります。コミュニケーションということです。だから、我々には当たり前のことです。

これが、ドイツのクラブの歴史、特徴ですね。お金はあんまり必要ではありません。大体月に1,000円ぐらい。

○池田議員 僕の夢は堺にサッカークラブチーム、ブンデスリーグみたいな、ああいうのをつくって、障害者と一緒にスポーツができることです。堺にはフランクフルトの稲本、もともと堺の選手です、そして日本サッカー協会の会長は、堺で勉強しました。

だから、特にそういう障害者とかの勉強に、これからもっとやるために、スポーツ以外に、さっき助産師のがありましたけど、ほかにもっとどんな取り組みがありますか。勉強会みたいなものとか。

○説明者 サッカーは、もちろん大事なことですけれども、例えば、ちょっと変わったスポーツの方、努力したらいかがでしょうか。

こちらでの考え方は、スポーツはやっぱり社会に対していろいろメリットがあるから、スポーツは体のため、社会のため、人間の関係のためのものです。

サッカーリーグは完全にやっぱり目的はお金じゃないですか。こちらの方はちょっと違います。同じスポーツだけれども、目的はちょっと違います。

○中井議員 若い人が最近、スポーツというものに興味を示してこないということでしたけど、その背景はどんなものがあるんですか。

○説明者 こちらの調査によると、14歳、15歳までスポーツに対してすごく興味を持っています。15歳から急にダウンします。そうすると、スポーツの中でやっぱり15歳から何かおもしろいところを見つけなくちゃいけないんです。

だから、トレーニングだけじゃなくて、おもしろいとか、刺激とか。ドイツの方で、今、森の中で、すごくクライミングが、はやってるんです。そういうスポーツの方、体験、冒険に近いものを入れたら、やっぱり楽しいじゃないですか。ただの水泳はおもしろくありません。

それで、さっき言ったように、こちらから学校の方へ行って、やっぱり年配の先生方はまだわからないから、新しいスポーツの活動の紹介をするんですね。

- 水谷議員 ここで取ったライセンスというのはあるんですか。
- 説明者 やっぱり証明書になります。そうすると、2年間ごとに訓練しなくちゃいけません。
- 土師議員 キャラクタービジネスについて、簡単にご説明してください。
- 説明者 非常に少ないです。あんまり売り上げは大したことはありません。
- 土師議員 要するに宣伝目的ということですね。
- 中井議員 どうもありがとうございました。